

各地の活動紹介 北海道

一般社団法人北海道言語聴覚士会

新たな歴史の第一歩

北海道言語聴覚士会 北風 祐子

北海道言語聴覚士会は、2000年に「北海道言語聴覚士の会」として、当時は新聞で発表されていた国家試験合格者名簿をもとに声掛けをし、賛同を得た175名で発足しました。それから時を経て、現在は会員数も600名を超える大所帯となり、平成28年1月15日に念願の一般社団法人となりました。北海道はもともと理学療法士会、作業療法士会と共に3士会としての取り組みが盛んで、重ねて昨今の地域包括ケアシステム構築に向け対外的な活動が増える中で、一般社団法人化は急務の課題となっております。言語聴覚士会が一般社団法人化するのとほぼ同時に、それまで北海道リハビリテーション3団体連絡協議会として活動していたものを、一般社団法人北海道リハビリテーション専門職協会として再スタートを切ることとなったのです。

一般社団法人北海道言語聴覚士会 設立記念講演

例年よりも桜の開花が早かった今年ですが、4月2日といえば、まだまだ雪も解け切らない北海道です。年度も始まったばかりの忙しい時期ではありましたが、一般社団法人北海道言語聴覚士会設立記念講演ならびに記念式典を執り行いました。記念講演では、「言語聴覚士のこれからの課題とあり方」というテーマで、深浦順一日本言語聴覚士協会会長より、次いで「平成28年度診療報酬改定につ



記念式典で挨拶をする道士会会長 小橋 透



深浦会長（中央）、内山副会長（右から4番目）と
北海道言語聴覚士会のスタッフ

いて、ST協会の取り組みとSTに求められること」と題し、内山量史日本言語聴覚士協会副会長よりご講演をいただきました。

深浦会長からは、STが国家資格になるまでの道のりなどのお話もいただき、若いSTたちにとっては初めて聞くようなこともあり、とても興味深い講演でした。内山副会長のご講演は、非常にホットな話題であったため質問も多く、ざっくばらんに対応していただいたことがより現実的なこととして受け止められたようでした。お二人の先生方が身近に感じられる充実した記念講演となりました。

北海道リハビリテーション 専門職協会の記念式典

その後、北海道リハビリテーション専門職協会の記念式典が開催されました。当面の課題がリハビリテーション専門職不在市町村ゼロ作戦であり、北海道の広大な地域を10の支部に分け、さらに二次医療圏域に準じて28の地区長を配置しております。この日はそのような地域からの代表者だけでなく、それぞれの協会長や医師会、各職能団体の方の出席をいただき、盛大な式典となりました。このように、各団体の核となる方々が集まる席に身を置くと、私たち一人ひとりの役割や責任の重さを改めて感じるとともに、新たな歴史の第一歩がスタートする高揚感を覚えました。

北海道言語聴覚士会としては組織の基盤がまだまだ十分でない面もあり、課題も山積しておりますが、先人たちの思いを忘れずに、今後も本会の発展のために同じ方向を見て協同していこう、という決意を共有できた1日でした。

翌日にも研修会を開催したため、2日間にわたりご講演いただいた深浦会長と内山副会長に、この場を借りて感謝を申し上げます。